



特別寄稿

「日本での研修を終えて」

チリ人血液内科医のマルセラ・エスピノサと申します。
LACRCの小田柿智之先生のご紹介で、本年1月4日から3月末まで、東京医科歯科大学血液内科で研修の機会を得ることができました。お世話になりました先生方の研究活動や、入院及び外来での実際の診療を通して、様々な経験することができました。

その中で、日本とチリとは、疫学的に頻度の高い血液内科疾患が大きく異なっていることに気がきました。例として、日本ではチリに比べて、慢性リンパ性白血病とヒト免疫不全ウイルスに関連したリンパ腫の発症率が低いことなどが挙げられます。一方、チリでは殆ど経験したことがないEpstein-Barr ウイルス、ヒトT細胞白血病ウイルスとそれらに関連した疾患を日本で経験することができました。

こういった経験ができたのは、非常に親身に丁寧に対応して下さった、優秀な血液内科の先生方のお力によるものです。

加えて、年間100件ほどの骨髄移植で実績のある駒込病院にも研修に行かせていただきました。

高度な先進医療を行う2施設で多くのことを経験できたことに、心より感謝を申し上げますとともに、多くの外国人医師に、私のような素晴らしい経験をさせていただきたいと思う次第です。

血液内科医 マルセラ・エスピノサ



LACRC TMDU
IN CHILE
Latin American Collaborative Research Center
Santiago de Chile



本学血液内科の先生方と記念撮影
(本人:1列目、左より3番目)

駒込病院の先生方と記念撮影
(本人:1列目、左より3番目)

Contents

ご挨拶	1
JDプログラム	2
PRENECの進捗状況	3
活動報告	4

ジョイント・ディグリー・プログラム

本年3月に本学及びチリ大学以外の委員で構成する第三者評価委員会を初めて実施しました。また、同月にプログラムの総括を行うため医学部長会議を行いました。本号では会議の概要をお伝えいたします。

第三者評価委員会及びJDP医学部長会議の開催

University of Chile and TMDU Joint Degree Program in Medical Sciences with mention of a medical specialty

External Assessment Sheet

Term of the Assessment
From April, 2016 to March, 2017

本年3月1日から20日にかけて、外部の医療・教育関係者3名で構成する第三者評価委員会を開催しました。2016年度の本プログラムの活動に関する自己点検・評価報告書に基づいて実施され、第三者評価委員会で、外部評価報告書を作成しました。総合評価では高い評価を得ることとなりました。

また、3月29日に医学部長会議を開催し、チリ大学よりククルジャン医学部長、オライアン教授、本学より北川医学部長、小嶋教授、植竹教授が出席しました。会議では2017年におけるJDPの総括、第三者評価委員会の結果、新たな分野でのJDPの拡大等について協議しました。

JDP学生チリへ到着

JDPの二期生として昨年10月に入学した松宮由利子医師が、3月29日にチリに到着しました。第1セメスターではチリ大学医学部で基礎科目を受講し、クリニカ・ラス・コンデス(以下CLC)内の研究部門では臨床研究演習を受講します。

また第2セメスターでは、本人の学習状況に合わせて講義科目を選択する予定です。

LACRCは学生が充実して過ごしていけるようにサポートしていきます。



左よりアウマダ氏、松宮医師、オライアン教授

PRENECの進捗状況

大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)の最新情報をご報告いたします。現在、プンタ・アレナス、バルパライソ、サンティアゴ、バルディビア、オソルノ、コキンボの6都市でプログラムが進行しています。これに加え、2月にはコンセプションへ疫学的便潜血反応検査キットが送付され、患者登録の準備が行われています。国外では、パラグアイにて6月より開始したパイロットプロジェクトが終了し、今後は正式にPRENECに参加する方向で準備が進められています。

PRENEC会議

LACRCの小田柿助教の一時帰国に合わせて、2月14日にPRENECに関する会議が行われました。本学からは、田中雄二郎理事、植竹宏之教授、安野正道准教授、岡田卓也講師、伊藤崇助教、吉田丘部長、片山智弘課長、野村直史氏、ソニア・レオン・カマラ氏が参加しました。小田柿助教がPRENECの進捗状況についての報告を行い、今後の展開について協議しました。また、翌15日には、吉澤靖之学長へ2017年度のチリでの活動を報告し、学長より激励のお言葉をいただきました。



左より小田柿助教、吉澤学長



左より安野准教授、小田柿助教、田中理事

LACRC活動報告

消化器講習会への参加

3月22日・23日、サンティアゴ市内の有数の私立病院であるクリニカ・アレマナにてXI Curso Avances en Gastroenterología Diagnóstico y Manejo en Oncología Digestiva（第6回消化器診断・消化器腫瘍の取り扱いアドバンスコース）が開催され、小田柿助教が演者として参加しました。この講習会では、チリ国内の消化器科医を対象に行われ、小田柿助教は「早期食道がんの診断」に関する発表をしました。症例検討会も行われ、活発な議論が交わされました。



左よりルエダ医師、小田柿助教、サエンス医師



クリニカ・アレマナ外観

編集後記

本学とのプロジェクトに大きく関わっているCLCのロペス医師が、本年3月より現職のCLC大腸肛門外科部長に加えて、CLC内がんセンターのセンター長を兼務することとなりました。また、PRENECが公立病院を対象としているのに対し、これと並行してチリ国内の私立病院を対象とした大腸がん早期診断プロジェクトが、CLC独自で始まりつつあります。これにより公立・私立病院の枠にとらわれず、より多くのチリの大腸がんの早期発見に繋がることとなります。今後もLACRCオフィスの近況をご報告してまいりますので、引き続き、ご愛読の程宜しく願いたします。（早川美貴）

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点
Latin American Collaborative Research Center
Newsletter No.29, March 2018

[発行日] 2018年3月31日
[制作] Latin American Collaborative Research Center
Tokyo Medical & Dental University
Clínica Las Condes
Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile
Tel: (56-2) 2610 3780
Email: LACRC-CHILE.adm@cmn.tmd.ac.jp